

科目名		映像舞台制作実習			
担当教員		鈴木則子		実務授業の有無	○
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	84時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 14日×6コマ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		テーマ・スケジュール・内容などの決定		
2	台本作成		構成およびラフ台本完成		
3	台本作成		台本完成		
4	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
5	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
6	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
7	稽古期間		音響・照明プランニング		
8	稽古期間		音響・照明プランニング		
9	稽古期間		音響・照明プランニング		
10	稽古期間		最終チェック		
11	リハーサル		会場入り（通し）		
12	リハーサル		会場入り（通し）		
13	ゲネラルプローブ				
14	本番				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。			

科目名	演技・映像業界研究				
担当教員	朝倉隆司（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	45時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 7日×6コマ+3コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
2	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
3	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
4	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
5	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
6	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
7	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
8	特別講師によるワークショップ		著名な声優による指導		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。		
実務経験教員の経歴	業界で活躍する著名な声優				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		映像・声優・俳優専攻ゼミ			
担当教員	鈴木則子（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	単位時間数	29時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標（到達目標）	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
2	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
3	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
4	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
5	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。		講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。			
実務経験教員の経歴	業界で活躍する著名な声優				

科目名	演技・映像業界研究				
担当教員	鈴木則子（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科声優コース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	45時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 7日×6コマ+3コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
2	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
3	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
4	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
5	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
6	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
7	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
8	特別講師によるワークショップ	著名な声優による指導			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート提出80%、授業態度および意欲20%		講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	業界で活躍する著名な声優				

科目名	HIP HOP II				
担当教員	MIE (中野 美恵)		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 正しい姿勢で舞台に映える動きを身につける。 2. アイスレーションが正しくできるようにする。 3. リズムキープに表現力がプラスされたダンスができるようにする。				
学習目標 (到達目標)	1. 舞台で使えるアイスレーションをマスターし、ボディコントロールできるようになる。2. 振り付けられた内容の中で、個々の表現を取り入れながら踊れるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ、アイスレーション、リズムトレーニング		1年次の復習。		
2	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
3	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
4	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
5	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
6	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
7	ストレッチ、アイスレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
8	ストレッチ、アイスレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
9	課題発表		グループ発表。		
10	ストレッチ、アイスレーション、リズムトレーニング		前期の復習。		
11	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
12	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
13	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
14	ストレッチ、アイスレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
15	ストレッチ、アイスレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
16	ストレッチ、アイスレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
17	課題発表		グループ発表。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			進行状況に合わせてながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴	HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。				

科目名	クラシックバレエ				
担当教員	内堀 照子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. バレエの基礎を学ぶことにより、表現者としての美しい立ち方、動きを磨く。 2. ミュージカルにも対応できる人材を育成する。				
学習目標 (到達目標)	1. 基本姿勢を身につける。 2. 体を自由に動かし演技ができる。 3. 音楽に合わせて踊ることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	バレエシューズ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基本姿勢		立ち方確認。姿勢矯正		
2	スキップ シャッセ		姿勢を保ちながら、スキップ、シャッセ		
3	ステップ		シャッセ、パ・ド・ブレ		
4	バーレッスン		プリエ、タンジュ、ソテー、ジュッテ、パッセ		
5	バーレッスン		前回までの復習。ロンデジャンプ		
6	バーレッスン		前回の復習。フォンジュ		
7	バーレッスン		前回の復習。バットマン、グランドバットマン		
8	センターレッスン		前回の復習。バーなしでのタンジュ		
9	センターレッスン		前回の復習。ビルエット		
10	センターレッスン		前回の復習。ワルツ		
11	センターレッスン		前回の復習。ジャンプ		
12	センターレッスン		前回の復習。アレグロジャンプ		
13	センターレッスン		前回の復習。グランジャンプ		
14	センターレッスン		組み合わせ練習1		
15	センターレッスン		組み合わせ練習2		
16	センターレッスン		組み合わせ練習3。課題練習		
17	課題発表		課題発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			バレエの基礎を、表現者としての姿勢や演じる際の身体の動きに活かすことを目的としている。積み重ねによって修得できるものなので、自主練習をし、日常生活でも身体の動きを意識してほしい。		
実務経験教員の経歴	バレエ教室代表、ミュージカル振付師として、30年以上の経験を持つ				

科目名		ビジネス著作権BASIC			
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	著作権とは何か		イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的		
2	著作権で保護されるもの		著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
3	著作権は誰が持つ		著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
4	著作権の内容 1		著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41		
5	著作権の内容 2		財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権・上映権・公衆送信権・貸与権・譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59		
6	著作権は誰が持ついつまで保護される		著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
7	他人の著作物は勝手に使えない		著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
8	勝手に使える場合がある		権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101		
9	著作物を伝達する者を保護する制度		著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権保護期間 教科書P117～P129		
10	勝手に使うとどうなるか		著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
11	著作権に関する関連制度		知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
12	産業財産権とは		特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは		問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外		問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺		問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
16	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）		答え合わせおよび解説		
17	ビジネス著作権BASIC検定試験		直前に模擬テストおよび解説あり。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名		舞台演技実習 II			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2. 演技メソッドの理解と実践 3. リアリズム演劇を理解する				
学習目標 (到達目標)	現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	俳優演技の基礎1 体の使い方		トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
2	俳優演技の基礎2 表情を鍛える		日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
3	俳優演技の基礎3 呼吸法に対する意識		気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
4	俳優演技の基礎4 シチュエーション		場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
5	俳優演技の基礎5 感情表現について		感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
6	俳優演技の基礎6 喜怒哀楽と老若男女		感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
7	俳優演技の基礎7 アンサンブル稽古		集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
8	俳優演技の基礎8 コロス		集団演技について		
9	演技発表1		コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
10	演技実習1 姿勢や発声で必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
11	演技実習2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
12	演技実習3 インプロ1		反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
13	演技実習4 インプロ2		シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
14	演技実習5 エチュード1		場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
15	演技実習6 エチュード2		前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
16	演技実習7 エチュード3		エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
17	演技発表2		グループ(6~10人)での発表会(エチュード)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	演劇トレーニングII				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 役者の仕事を理解し、演技することができる 2. 戯曲を読解し、演技につなぐことができる 3. 役へのアプローチを多角的にできる				
学習目標 (到達目標)	役者とは、演技とは何かを常に追求する頭を獲得し、戯曲やシナリオを役者の観点から読解することができるようになる。多角的な役へのアプローチを実践し、現場で必要とされる演技力を獲得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	その場に応じて教材・テキストを用意。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	役者とは・演技とは		役者とは何か、演技とは何かを考察する。演技者の為のイントロダクション		
2	セリフと間		セリフと間を実際に演じてみるエクササイズ		
3	演技で空気をつくる		演技で空気をつくるエクササイズ		
4	戯曲の読み方		役者としての戯曲の読み方・分析		
5	セリフ演技について		セリフ演技についての説明・実践		
6	戯曲への演技アプローチ1		戯曲の解釈から演技に繋げる実習		
7	戯曲への演技アプローチ2		戯曲の解釈から演技に繋げる実習		
8	戯曲への演技アプローチ3		戯曲の解釈から演技に繋げる実習		
9	テスト発表				
10	ドラマのための即興演技1		1人での即興トレーニング		
11	ドラマのための即興演技2		2人組での即興トレーニング		
12	ドラマのための即興演技3		グループでの即興トレーニング		
13	ドラマのための即興演技4		戯曲を使った即興トレーニング		
14	ドラマのための即興演技5		戯曲を使った即興トレーニング		
15	ドラマのための即興演技6		戯曲を使った即興トレーニング		
16	ドラマのための即興演技7		戯曲を使った即興トレーニング		
17	テスト発表				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 役者としての自分と真摯に向き合う姿勢と、演劇に対する好奇心、演技力向上に対するモチベーションを保つこと。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名	ヴォーカルトレーニングⅡ				
担当教員	鎌倉 亜子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本発声の定着 2. 音域の拡大 3. リズム感、音程、ハモリの耳の強化				
学習目標 (到達目標)	抜力した上で声量上げる、洋楽ゴスペル曲（4声）の完成				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎発声		リップ、タンゴロールで抜力させる		
2	Mixvo.の定着		やわらかい響き作り		
3	口・鼻・喉の共鳴		それぞれの違いの確認		
4	Middlevo.の強化		閉鎖筋の強化		
5	リズムトレーニング&音程		音程発声にリズムを追加		
6	ゴスペル4声パート練習		パートごとの安定		
7	ゴスペル4声5曲完成		発表の場を設け、達成感を味わう		
8	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
9	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
10	課題曲歌唱Ⅰ		ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
11	課題曲歌唱Ⅰ		ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
12	課題曲歌唱Ⅱ		ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
13	課題曲歌唱Ⅱ		ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
14	課題曲歌唱Ⅲ		ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
15	課題曲歌唱Ⅲ		ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
16	試験用課題曲レッスン		歌唱チェック		
17	試験		課題歌唱曲に対する評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年				

科目名	滑舌 II				
担当教員	関根 美紀		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声 滑舌練習		1年次の振り返り。復習練習。		
2	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		1年次の振り返り。尾高から平板読み練習。		
3	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		高感度の良い読み方、フラットな読み方の練習。		
4	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		前回までの復習と再修正。		
5	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域		基礎練習。音域を広げる練習。		
6	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域		基礎練習。音域を広げる練習。		
7	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習		同じ文章で抑揚を変えて練習。ストレートに読む練習。		
8	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習		テスト課題練習。		
9	テスト		実技テスト		
10	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を正しく読む練習。		
11	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を正しく早く読む練習。		
12	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を表現を加えて読む練習。		
13	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。敬語多めの文章。		
14	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。無声化確認。		
15	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。プレス調節。		
16	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。テスト課題練習。		
17	テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

科目名	声優（基礎）トレーニング				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 日々行えるトレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 役者として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やブレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
17	実技テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	司会・トーク（基礎）実技				
担当教員	渋谷 千恵子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基礎的アナウンス力の徹底。 2. 司会現場に応じた言葉遣いと進行。 3.				
学習目標 (到達目標)	イベント及びブライダルの基本的な進行と台本作成。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	司会とは		司会の種類とそれぞれの心構えを説明。		
2	イベント司会		司会原稿読みの練習と発表。		
3	イベント司会		インタビュー練習と発表。		
4	イベント司会		イベント司会の組み立てと練習。（インタビュー含む）		
5	イベント司会		前回のイベント司会の発表。フィードバック。		
6	ラジオ番組進行		ラジオ公開生放送をイメージ。進行内容を考え、練習。		
7	ラジオ番組進行		前回のラジオ公開生放送練習の発表。フィードバック。		
8	講演会司会		講演会の司会進行練習。		
9	講演会司会		講演会の司会進行練習と発表。		
10	ブライダル司会		ブライダルについて、心構えや注意点など説明。		
11	ブライダル司会		新郎新婦プロフィール作成。言葉遣いの徹底。		
12	ブライダル司会		ブライダル進行台本の作成。		
13	ブライダル司会		ブライダル進行練習。		
14	ブライダル司会		ブライダル進行発表。		
15	パーティ司会		パーティ司会（ボジョレーヌーボイベント）の練習。		
16	パーティ司会		パーティ司会（ボジョレーヌーボイベント）の発表。		
17	テストとまとめ		テストと振り返り。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)30%、企画力30%、学習意欲30%、アピール力20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			発声・滑舌などを意識しながらトークをさせる。 また、プレゼンテーション回数を多くすることによって、人前で話すことに慣れさせる。		
実務経験教員の経歴	司会やセミナー講師を20年以上務める				

科目名	声乐Ⅱ				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. テキストを元に声乐の基礎から応用を身につける。 2. 正しい音程、合唱でも他に惑わされない音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声乐の基礎から応用を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。		
2	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
9	テスト		ミュージカル楽曲Bテスト。		
10	身体レッスンとチェック コンコーネ		歌唱と目について確認。コンコーネNo.8 No9		
11	体勢チェック コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.10 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo20 No21、コンコーネNo.10 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo21b/e、コンコーネNo.11 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。		
16	発声 ミュージカル楽曲		ミュージカル楽曲C練習。		
17	テスト		ミュージカル楽曲Cテスト。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声乐指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	ナレーション実習II				
担当教員	白根 美弥子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. CMナレーションにおける表現力を強化。 2. 番組ナレーションの基礎を学ぶ。 3. 実習しながら、現場で通用するナレーション力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 15秒のCMで伝えられる効果的なナレーション力を身につける。2. CMとは異なる長めのナレーション。安定したナレーション力を身につける。3. 臨機応変に現場で対応できる力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1年次の復習 ボイスチェック		はっきりと明瞭に読めるか、原稿にてチェック。		
2	CM ナレーション		1年次の復習。元気なナレーションを練習。		
3	VP ナレーション		企業VPを感情を込めつつ明瞭に読む練習。		
4	VP ナレーション		企業VPを感情を込めつつ明瞭に読む練習。		
5	VP ナレーション		企業VPを感情を込めつつ明瞭に読む練習。		
6	店頭放送用商品紹介ナレーション		明るく明瞭に商品を紹介する練習。		
7	店頭放送用商品紹介ナレーション		明るく明瞭に商品を紹介する練習。		
8	店頭放送用商品紹介ナレーション		明るく明瞭に商品を紹介する練習。		
9	テスト		課題テストと指導。		
10	番組ナレーション (ドキュメンタリー)		ドキュメンタリー番組のナレーション練習。(明るめ)		
11	番組ナレーション (ドキュメンタリー)		ドキュメンタリー番組のナレーション練習。(明るめ)		
12	番組ナレーション (ドキュメンタリー)		ドキュメンタリー番組のナレーション練習。(明るめ)		
13	番組ナレーション (ドキュメンタリー)		ドキュメンタリー番組のナレーション練習。(戦争)		
14	番組ナレーション (ドキュメンタリー)		ドキュメンタリー番組のナレーション練習。(戦争)		
15	番組ナレーション (ドキュメンタリー)		ドキュメンタリー番組のナレーション練習。(戦争)		
16	番組ナレーション (ドキュメンタリー)		ドキュメンタリー番組のナレーション練習。(戦争)		
17	テスト		課題テストと指導。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			発声・滑舌などの基礎を磨きつつ、ナレーションでの表現力を磨く。一口にナレーションと言っても、種類・イメージは様々。それぞれの現場に対応できるよう意識し練習をしてもらおう。		
実務経験教員の経歴	ナレーター、CM制作スタッフとして、20年以上CM制作に携わってきた。				

科目名	ボイスライブラリー制作				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	26時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 仕事として現場から求められるナレーター・声優とは何かを習得する。 2. 原稿や宣材資料の作成などにより、自己プロデュース力を育成する。 3. ナレーション収録を行うことにより、技術向上と経験を習得する。				
学習目標 (到達目標)	1. ナレーション技術の向上。2. 文章作成力の向上。3. 一人ナレーションにおけるマイクワークを習得する。4. スタジオマナーの習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	求められる人材とボイスライブラリーの意義		ボイスライブラリーの意義について説明 実際のナレーション確認		
2	ナレーション課題練習1		ナレーション課題練習①「本来の声を活かす」		
3	ナレーション課題練習2		ナレーション課題練習②「キャラクターを活かす」 ナレーション原稿作成について説明		
4	原稿作成1		原稿作成について説明 ナレーション原稿作成スタート		
5	原稿作成2		ナレーション原稿制作 選曲について説明（BGM・SE探し開始）		
6	原稿チェックと選曲1		ナレーション原稿チェック 選曲チェック（候補曲確認）		
7	原稿チェックと選曲2		ナレーション原稿チェック 選曲チェック（候補曲確認）		
8	原稿チェックと選曲3		ナレーション原稿チェック 選曲チェック（候補曲確認）		
9	ナレーション原稿決定 プロフィール制作1		ナレーション原稿決定 宣材写真・衣装について説明		
10	収録用ナレーション練習1		収録用ナレーション練習1		
11	収録用ナレーション練習2 プロフィール制作2		収録用ナレーション練習2 宣材写真衣装チェック		
12	収録用ナレーション練習3		スタジオにてナレーション練習		
13	ナレーション仮収録		スタジオにてナレーション仮練習		
14	収録用ナレーション練習4 プロフィール制作3		仮収録における音声チェック プロフィール原稿作成について説明		
15	ナレーション本収録		ナレーション本収録		
16	宣材写真撮影		プロフィール宣材写真撮影		
17	プロフィール制作4		プロフィール自己アピール文作成		
18	プロフィール制作5		プロフィールデータの作成		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
ナレーション実技30%、原稿作成25%、収録25%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、収録に臨む。基礎ができていなければ現場には行けないということをしっかりと認識する。 自身の声を知り自身の声を活かし、また、現場が求めるナレーションとは何かを考察させる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	朗読Ⅱ				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 「語る」ための基礎力育成。 2. 「表現する」ためのイメージ力育成。 3. 発表により、伝える力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 読解力の強化。2. 登場人物の深層心理をくみ取りつつ表現することができる。 3. よりリアリティーのある語り表現の育成。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師テキスト				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	日本文学1		作家太宰治の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
2	日本文学2		作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
3	日本文学3		作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
4	日本文学4		作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
5	日本文学5		作家太宰治の短編小説の朗読。 語り癖の確認と修正。		
6	日本文学6		グループ発表。		
7	現代小説1		現代の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
8	現代小説2		現代の短編小説の朗読練習。		
9	現代小説3		現代の短編小説の朗読練習。		
10	現代小説4		現代の短編小説の朗読練習。		
11	現代小説5		現代の短編小説の朗読練習。		
12	現代小説6		グループ発表。		
13	海外小説1		海外の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
14	海外小説2		海外の短編小説の朗読練習。		
15	海外小説3		海外の短編小説の朗読練習。		
16	海外小説4		海外の短編小説の朗読練習。		
17	海外小説5		グループ発表。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、語る力、表現力を磨く。 聴く人に、声で物語の世界を見せられるようにするには、自身もイメージを高めて表現しなければならない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	人狼メソッド				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 人狼ゲームを用いた人狼メソッドを習得 2. インプロの理解とインプロスキルの強化 3. グループワークで創作発表できる				
学習目標 (到達目標)	人狼TLPT監修のもと、人狼ゲームを用いた人狼メソッドで演技力の向上を目指す。ゲーム性を取り入れることで自身の演技スイッチを自覚し、インプロで演技交換ができるようになる。観客を意識したグループ発表ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	人狼TLPT教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インプロワークス1		イントロダクション・インプロとは何か・なぜインプロが必要か		
2	インプロワークス2		インプロの基礎・イエスアンドの説明		
3	人前で喋る1		ディベート(1VS2)		
4	人前で喋る2		ディベート(1VS観客)		
5	インプロゲーム1		イエスアンド・イエスアンドイェー		
6	インプロゲーム2		水とミルク		
7	インプロゲーム3		ワードウルフ(グループワーク)		
8	インプロゲーム4		ワードウルフ(グループワーク)		
9	インプロゲーム5		ワードウルフ(発表)		
10	人狼メソッド1		人狼メソッドの説明		
11	人狼メソッド2		関係性なしでチーム分けをして人狼ゲーム		
12	人狼メソッド3		人狼ゲーム(全員喋る、割り込む)		
13	人狼メソッド4		人狼ゲーム(簡易関係性をつくる)		
14	人狼メソッド5		人狼ゲーム(関係性をアドリブでつくる)		
15	人狼メソッド6		人狼ゲーム(死に対するリアクション、遺言、感想タイム)		
16	人狼メソッド7		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(グループワーク)		
17	人狼メソッド8		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(発表)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名		総合イベント演習						
担当教員		鈴木則子		実務授業の有無		○		
対象学科		映像・演技研究科	対象学年		1	開講時期		前期・後期
必修・選択		必修	単位数		1	単位時間数		36時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。						
学習目標 (到達目標)		エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		作品に対する詳細な資料など(プリント)						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	舞台鑑賞			60年代の演劇映像×3本(レポート提出)				
2	舞台鑑賞			70年代の演劇映像×3本(レポート提出)				
3	舞台鑑賞			80年代以降の演劇映像×3本(レポート提出)				
4	演劇鑑賞			新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など				
5	演劇鑑賞			新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など				
6	演劇鑑賞			新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
レポート評価60%、作品鑑賞数30%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				授業外で作品鑑賞した場合、レポート提出で加点評価します。				
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む						

科目名		卒業進級制作実習			
担当教員		鈴木則子		実務授業の有無	○
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
2	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
3	企画書作成		内容		
4	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
5	台本作成		資料収集		
6	台本作成		基本的構成決定～ラフ台本完成		
7	台本作成		台本完成		
8	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
9	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
10	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
11	稽古期間		音響・照明プランニング		
12	稽古期間		音響・照明プランニング		
13	稽古期間		音響・照明プランニング		
14	稽古期間		音響・照明プランニング		
15	稽古期間		最終チェック		
16	リハーサル		会場入り（通し）		
17	リハーサル		会場入り（通し）		
18	リハーサル		会場入り（通し）		
19	ゲネラルプローベ				
20	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			卒業評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。			

科目名	声優実技				
担当教員	プロダクション所属の声優	実務授業の有無	○		
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. プロ声優による実技指導。 2. アフレコ、ドラマCDの演じ方などを学ぶ。 3. 声優としての意識を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優としての基礎を身につける。 2. キャラクターや状況に合わせた演技ができる。 3. マイクワークを身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アニメアフレコC		キャラクターの動きや表情を確認して演じる。		
2	アニメアフレコC		マイクワークを加えての練習。		
3	アニメアフレコC		マイクワークを加えての練習。		
4	アニメアフレコC		最終練習。(テスト)		
5	アフレコの現場 プロダクションについて		講義。今後の各自の進路研究につなげる。		
6	ボイスドラマA		キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。		
7	ボイスドラマA		マイクワークを加えての練習。		
8	ボイスドラマA		リハーサル。		
9	ボイスドラマA		最終練習。(テスト)		
10	外画吹替え実習		映像と台本のチェック。		
11	外画吹替え実習		吹替え練習		
12	外画吹替え実習		吹替え練習		
13	外画吹替え実習		最終練習。(テスト)		
14	ボイスドラマB		キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。		
15	ボイスドラマB		マイクワークを加えての練習。		
16	ボイスドラマB		リハーサル。		
17	ボイスドラマB		最終練習。(テスト)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			声優としての実力を磨く。 授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	各講師によりキャリアが違うが、プロダクション所属の現役声優による授業				

科目名	映画・映像制作				
担当教員	井上 朗子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオ制作を行う 2. 各授業で学んだ技術を総合的に使用してみる 3. グループワークで1つの映像作品として完成させる				
学習目標 (到達目標)	撮影・照明・編集・企画の授業の関連性を学生に持たせる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオ制作Ⅰ		シナリオの作り方を学ぶ		
2	映画・映像制作基礎知識Ⅰ		撮影・照明・録音・制作・演出・美術等各部署の役割を学ぶ		
3	シナリオ制作Ⅱ		各個人、個人でシナリオの作成を行う		
4	シナリオ制作Ⅲ		各個人、個人でシナリオの作成を行う		
5	シナリオ制作Ⅳ		シナリオチェック、ダメ出し		
6	シナリオ制作Ⅴ		各個人、個人でシナリオの作成を行う		
7	シナリオ制作Ⅵ		シナリオ決定稿提出		
8	映画・映像制作基礎知識Ⅱ		ロケハンの注意点、考え方		
9	映画・映像制作基礎知識Ⅲ		メイク・美術の考え方		
10	制作実習Ⅰ		撮影場所、キャスト、予算等を決める		
11	制作実習Ⅱ		スケジュール、撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
12	制作実習Ⅲ		カメラテスト・衣装合わせ・小道具・リハーサル等準備		
13	撮影実習Ⅰ		撮影		
14	撮影実習Ⅱ		撮影		
15	編集実習Ⅰ		撮影		
16	編集実習Ⅱ		取り込み方法・仕上げ方法講義		
17	編集実習Ⅲ		編集したものを納品出来る形態にする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
シナリオ提出70%、出席率30%			一人、一作品必ずシナリオを提出する事。コンペで通らなくても、最後まで映像作品を完成させる事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	元にいがた映画塾代表、新潟で20年以上映画監督としても活躍している				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		シナリオ			
担当教員	梨本 倫則	実務授業の有無	○		
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。				
学習目標 (到達目標)	中編・長編制作オリジナルシナリオを完成させる。原稿用紙200枚程度（おおよそ100分）の長さのオリジナルシナリオを完成させる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	シナリオ基礎Ⅰ	基本的なシナリオの書き方を学ぶ			
2	シナリオ基礎Ⅱ	基本的なシナリオの書き方を学ぶ			
3	映画シナリオ研究Ⅰ	映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる			
4	映画シナリオ研究Ⅱ	映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる			
5	映画シナリオ研究Ⅲ	映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる			
6	シナリオ実習Ⅰ	自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。			
7	シナリオ実習Ⅱ	自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。			
8	シナリオ実習Ⅲ	自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。			
9	シナリオ実習Ⅳ	自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。			
10	シナリオ実習Ⅴ	自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。			
11	シナリオ発表	各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でブラッシュアップを行ってみる。			
12	シナリオ演習Ⅰ	実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
13	シナリオ演習Ⅱ	実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
14	シナリオ演習Ⅲ	実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
15	シナリオ演習Ⅳ	実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
16	シナリオ演習Ⅴ	実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
17	シナリオ演習Ⅵ	修了・卒業制作に向けての準備を行う。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
シナリオ提出70%、出席率30%		ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。 最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	国際的に活躍する映画監督／映像作家／写真家、日本映画監督協会員				

科目名	アニソンライブ実技				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音楽ライブ活動をビジネスとしてとらえ、より実践的な企画・運営・出演が出来る人材育成を行う。 2. 価値あるライブ活動が行い、セルフプロモーション能力を高める。 3. 実践的に模擬ライブを繰り返し行う。				
学習目標 (到達目標)	動員目標を明確にし(60名以上)、目標達成できる広報計画を実施し、観客の満足度を上げる演出力を育成する。なお、観客の満足度はアンケートにて評価する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料など				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ライブ企画		30分の音楽ライブに関する企画・立案方法を講義する。 ※ 次回までにA4レポート1枚で提出。		
2	ライブ企画 修正		提出されたレポートから良し悪しを抽出する。 ※ 次回までに完成した企画書を提出。		
3	企画から台本へ		提出された企画書を台本へ落とし込む。		
4	リハーサルステージ		台本をもとに、個々の30分音楽ステージを実施する。		
5	リハーサルステージ 修正		前回ステージでの改善点を修正し、問題があれば、新たに指摘する(よりクオリティーを向上する)。		
6	広報・動員について		音楽ライブの広報展開および動員計画について講義を行う。		
7	広報・動員コンテンツの作成		フライヤー、ポスター、Web広報のデザイン、情報、公開時期などを講義、ラフ作成を行う。		
8	前期終了音楽ライブのリハーサル		内容的クオリティーを高めるために進行段取りを確認し、本番で問題がないように確認する。		
9	前期終了音楽ライブ 本番		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
10	卒業音楽ライブの企画立案		テーマ・コンセプト・目的・内容・ターゲットの設定と企画書作成の実習		
11	広報・動員計画と実施内容		卒業ライブへの広報および動員計画の作成実習		
12	技術打合せ		音響・照明との打合せ。それぞれの関係性を講義。		
13	卒業音楽ライブ 実施準備		ライブハウスの押さえる(日時確定)、演出や衣装、小道具を揃える。ステージングの練習など		
14	リハーサルステージ I		卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティーを高める。		
15	リハーサルステージ II		卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティーを高める。		
16	音楽ライブに向けてのリハーサル		リハーサル時に最終チェックを行う。		
17	音楽ライブ実施		ライブハウスにてライブを開催する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期ライブ25%、卒業ライブ35%、企画書20%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			実習授業であり、教わることより自身で考えて行動することが重要である。また、外部(ライブハウス・音響・照明など)との連携が発生するために、コミュニケーション能力が問われる。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名	ヴォーカル実技				
担当教員	石田 耀子		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 1音1音に響きをつける 2. 自分の声のいいところ、悪いところを知る 3. ステージパフォーマンス				
学習目標 (到達目標)	歌い方、ニュアンスのつけ方の引き出しを増やし、幅を広げる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声、呼吸、声出し		基本的な歌唱トレーニング		
2	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C		基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導		
3	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C		基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導		
4	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C		基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導		
5	発声、課題曲フル、高音の出し方		歌唱テクニック		
6	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム		歌唱テクニック		
7	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム		歌唱テクニック		
8	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム		歌唱テクニック		
9	課題曲仕上げ		前期試験として歌唱発表		
10	発声、自由曲の選曲・歌唱		歌唱指導		
11	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方		歌唱指導		
12	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス		歌唱指導+ステージング		
13	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス		歌唱指導+ステージング		
14	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス		歌唱指導+ステージング		
15	がたフェス リハーサル		発表本番に向けての準備		
16	がたフェス リハーサル		発表本番に向けての準備		
17	がたフェス 本番		試験を兼ねた発表会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			がたフェスイベントにおいて観客の前に歌唱をします。歌唱上達もそうですが、プロとしての姿勢も学んで下さい。		
実務経験教員の経歴	アニソンスンガーとしてキャリア25年以上				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	舞台ステージ制作				
担当教員	矢頭 勲/安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	映像・演技研究科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 劇場の使い方を理解し、舞台イベントを企画する。 2. スタッフの役割・作業を理解する。 3. ステージ演出を企画し、公演として立ち上げることができる。				
学習目標 (到達目標)	劇場の使い方を理解し、自ら企画したステージイベントを演出し、発表まで立ち上げることができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	都度、必要な資料を配布。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	劇場の使い方		劇場の役割・シアターの設備説明・機材説明		
2	スタッフの役割		スタッフの種類と役割・作業内容の説明		
3	ステージ企画1		シアターで行う舞台ステージの企画を自分で考えてみる。		
4	ステージ企画2		舞台ステージの企画をビジュアル化する。		
5	ステージ企画3		自分の企画を他者にプレゼンする。		
6	グループ企画1		グループでオリジナルの舞台ステージを企画する。		
7	グループ企画2		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
8	グループ企画3		企画発表に向けてのリハーサルを行う。		
9	グループ企画発表		企画発表		
10	グループ企画1		グループでオリジナルの舞台ステージを企画する。		
11	グループ企画2		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
12	グループ企画3		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
13	グループ企画4		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
14	グループ企画5		企画発表に向けてのリハーサルを行う。		
15	グループ企画6		企画発表に向けてのリハーサルを行う。		
16	グループ企画発表1		企画発表		
17	グループ企画発表2		企画発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。		
実務経験教員の経歴	矢頭：舞台演劇活動歴30年以上、舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年 安川：芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				